



健康に、安全に、そしてチャレンジする夏休みに



いよいよ夏休みに入ります。昨年度は、年度当初に臨時休業となったことから夏休みが12日間に短縮されましたが、今年度は42日間です。

長い夏休みを有意義に過ごすためには、安全・安心が第一です。交通安全、水難事故防止はもとより、新型コロナウイルス感染症や熱中症にも十分な警戒が必要です。学校では、「マスク・手洗い・間をあける」、「汗をかいたら、ぐくっと1ばい」の合い言葉を夏休みも続けて、健康で安全な生活を心がけるよう指導しています。ご家庭におかれましても、特段のご配慮をお願いいたします。

夏休み前の朝会では、放送で以下のような話をしました。

いよいよ明日から夏休みが始まります。せっかくの長い休みですから、今まで自分が知らなかったこと、やったことがないことに、ぜひチャレンジしてほしいです。

そこで、例えば、天気のことを調べてみるのもよいでしょう。夏休みに合わせたかのように、夏らしい天気になってきましたが、7月の初めには、驚くほどの大雨が降って、日本の多くの地域で大きな被害が出ました。

皆さんは、天気予報をよく見ますか？また、雲や空の色を見て、どのような天気になるか考えますか？天気のことを知っておくことは、自分で自分の命を守るためにも大切なことです。雨だけでなく、熱中症へ備えるためにも必要です。今は、気象衛星からの写真もあります。レーダーでも雨雲の様子を調べています。また、どこでどのくらい雨が降っているか、気温は何度かなど、各地の気象データをスーパーコンピュータが計算して、先の天気がどうなるかを予想しています。

でも、ちょっと前までは、暦とか、空や雲や動物の様子から天気を予測していました。そんな生活の知恵は、今でも天気の「ことわざ」として残っています。「夕焼けは晴れのしるし」ということわざがあります。遠くまで見通せるときに起こります。西が晴れていると、次の日は晴れることが予想できるということです。「日がさ月がさ出ると雨」ということわざもあります。他にもどのような「天気のことわざ」があるか、家の人に聞いたり、本やインターネットで調べたりしてみるのもよいでしょう。自然の姿をよく見ていた昔の人の知恵は役立ちます。皆さんも、空を眺めて毎日の天気がどうなるか考え続けていくと、きっと今日はいつもと違った天気になりそうだと気が付きます。何よりも、いざというときに役立ちます。ただ、最近では、豪雨や猛暑など、今までの経験では考えられないようなことが起こるようになりました。

夏休みが終わった後に、「こんなことを調べたよ！」という皆さんからの報告を楽しみにしています。それでは、健康・安全に気を付けて、素晴らしい休みにしてください。

